

社会保険業務の業務・システム最適化計画の概要

～ 最適化の基本理念 ～

- ①業務の効率化・合理化 ②利用者の利便性の維持・向上 ③安全性・信頼性の確保 ④経費削減

最適化の実施内容

1. 業務施策

- (1) お客様へのサービス向上
 - ・年金加入状況等の情報提供の充実
 - ・コールセンター機能の充実
- (2) 業務処理の効率化・合理化
 - ・業務の集約化
 - ・定型的な業務の外部化や、市場化テスト等による外部委託の拡大
 - ・手作業処理のシステム化や、他公的機関とのデータ連携等による業務処理の合理化
- (3) 業務品質の向上
 - ・全国統一の業務処理基準の作成
 - ・業務ノウハウ共有化の仕組みの構築

2. システム施策

- (1) 記録管理システム及び基礎年金番号管理システムのオープン化
 - ・データ通信サービス契約から脱却
- (2) ハードウェア資源の集約及び有効活用
 - ・年金給付システムのハードウェア資源の集約
- (3) データセンターの統合

3. 安全性・信頼性の確保

- (1) 個人情報暗号化
- (2) 利用者認証機能の強化

4. 調達施策

- (1) 原則、一般競争入札による調達
- (2) 著作権等の知的所有権の取得

5. 最適化の実施に向けた体制整備（ITガバナンス体制の確立）

- (1) システム検証委員会による審査・確認機能の強化
- (2) システム部門の体制強化と専門性の高い職員の確保

システム導入経費及び削減効果

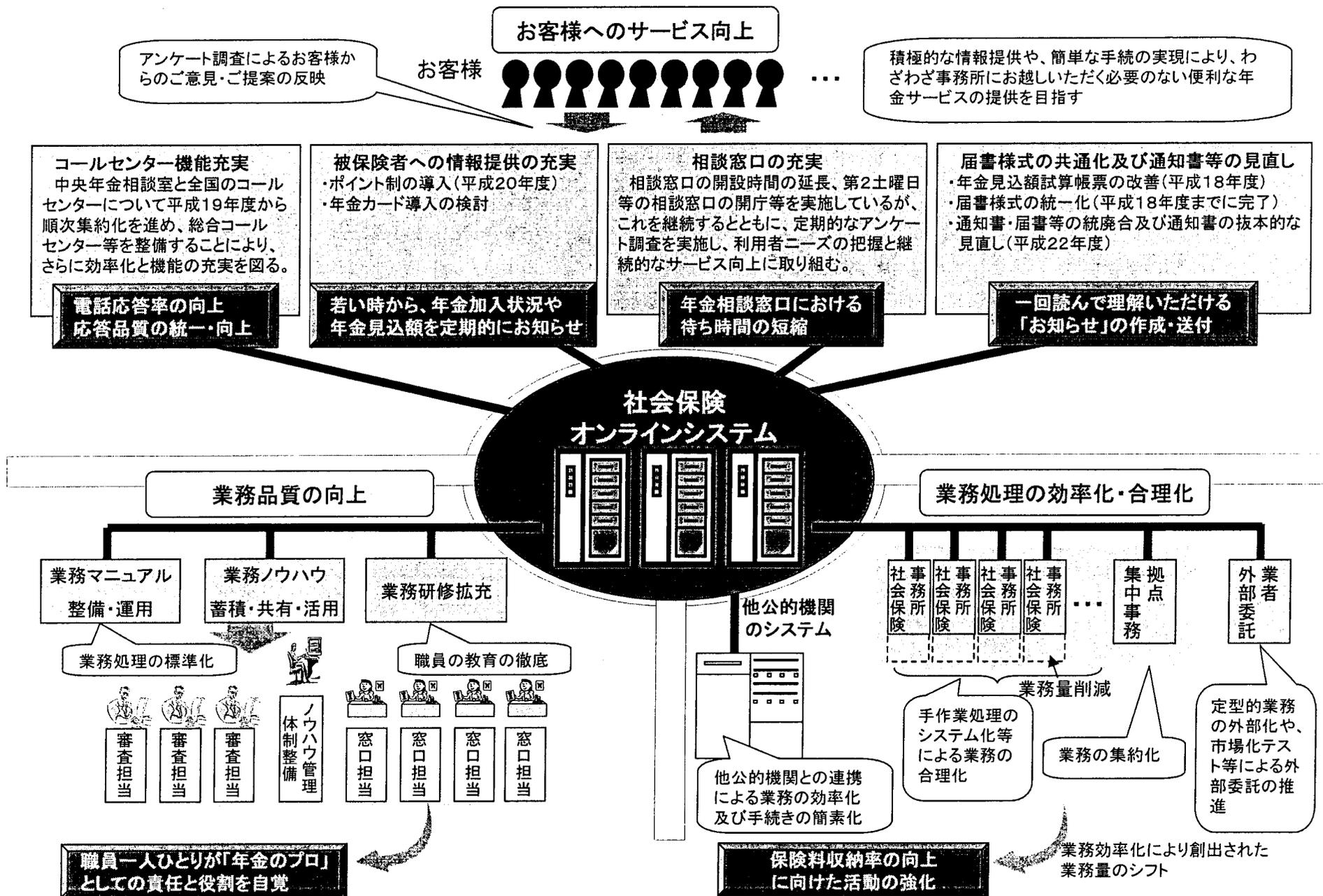
1. システム導入経費（平成18～22年度見込み）

- (1) オープンシステムの構築等（約1,300億円）
- (2) 過去に行ったソフトウェア開発分（いわゆる残債）の返済（約1,500億円）

2. 削減効果

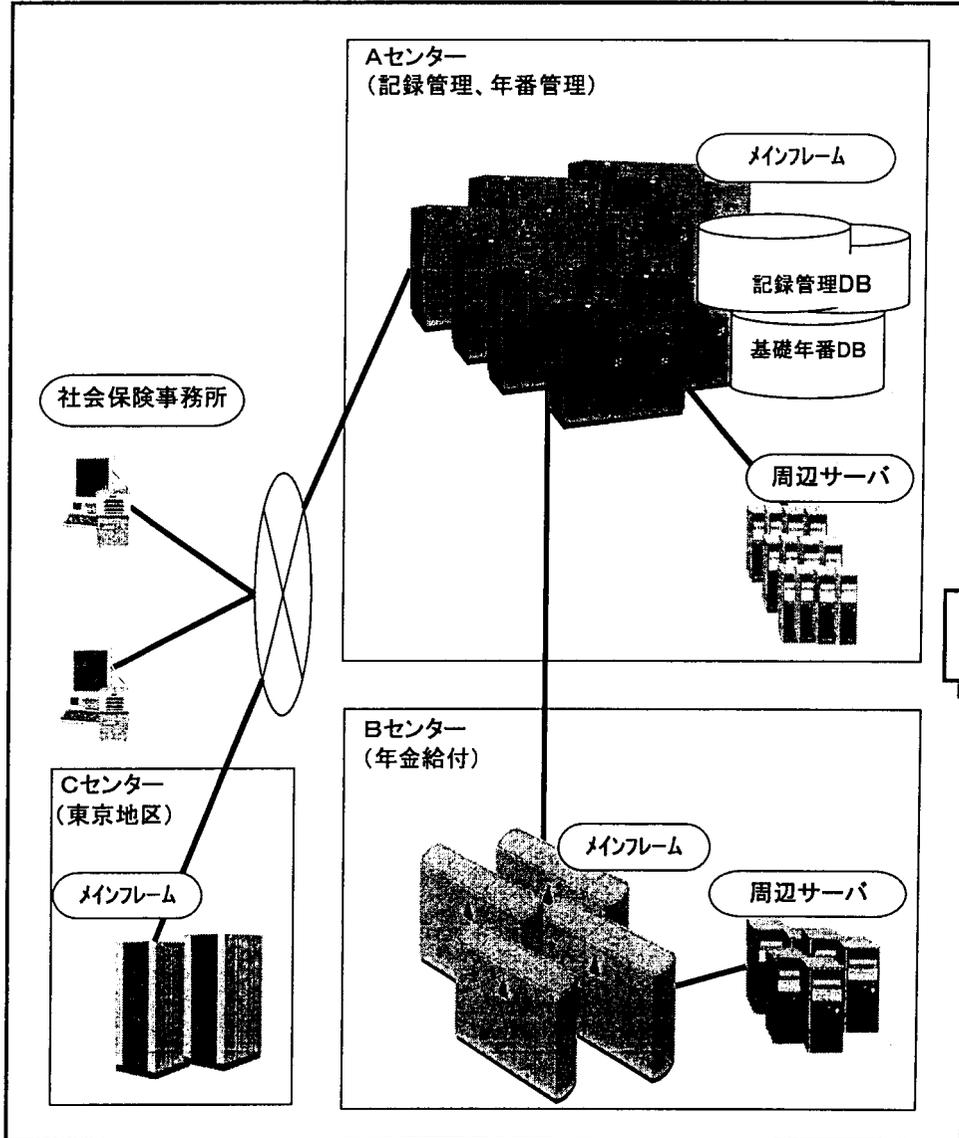
- (1) システムの年間運用コストを35%程度削減（約850億円 → 約550億円）
- (2) システムの初期コストを約4年で回収
- (3) 業務及びシステムの施策で9,000人～9,100人を人員削減
（2,700人～2,800人を強化する業務へシフト）

最適化による社会保険業務見直し

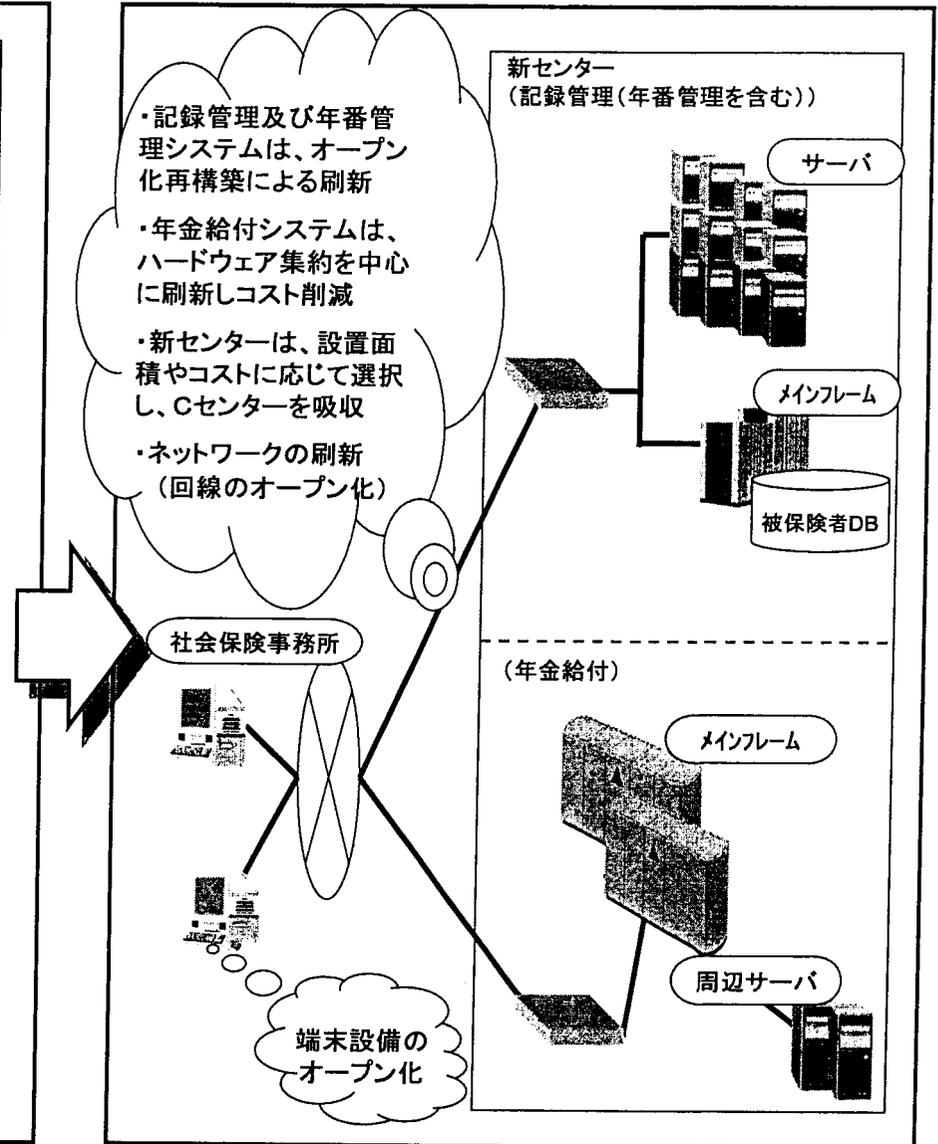


システム刷新案のシステム構成イメージ

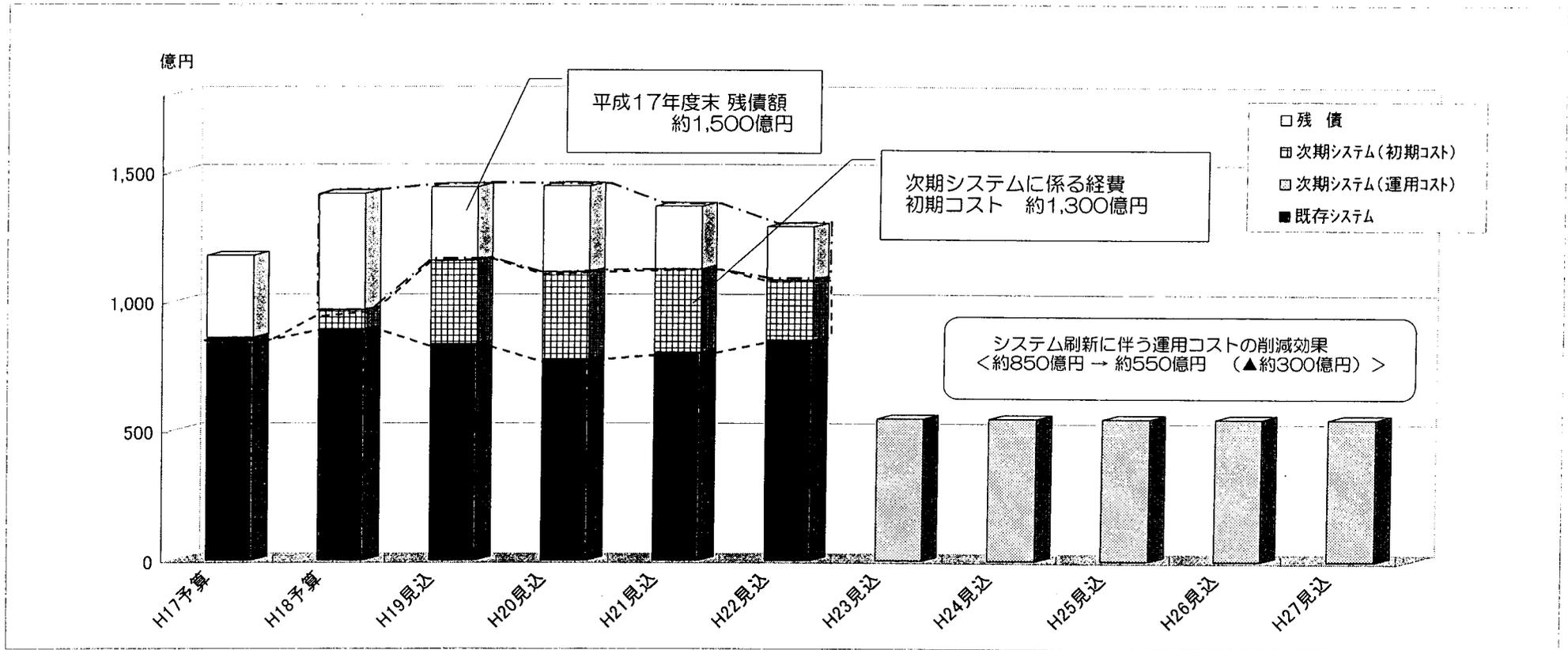
【現行】



【刷新案】



社会保険オンラインシステムに要する経費の見込み



○ 18年度予算額内訳 (単位: 億円)

いわゆる残債	449
次期システム(初期コスト)	74
既存システム	892
合計	1,415

- ※ 既存システムについては、平成16年年金法改正に伴うシステム改修経費を含む。
- ※ 工程管理業者、システム部門支援業者調達に要する経費(13億円)を除く。
- ※ 平成19年度以降の見込額については、変更があり得る。

システム刷新に向けたスケジュール

最適化実施項目	平成 18 年度	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度
オープンシステムの構築				支援系サービス ▽	業務系サービス ▽	
支援系 (平成 21 年 10 月実施)	調達	基本設計	調達	詳細設計・開発・テスト		新システム運用
業務系 (平成 23 年 1 月実施)	調達	基本設計	調達	詳細設計・開発・テスト		新システム運用
メインフレームの集約		記録管理システム集約	年金給付システム集約		データ通信サービス契約解除	
記録管理システム (平成 20 年 1 月実施)	設計・開発・テスト		システム運用			
年金給付システム (平成 21 年 1 月実施)		設計・開発・テスト	システム運用			
周辺サーバーの集約 (平成 21 年 1 月実施)	調達	設計・開発・テスト		サーバー集約	システム運用	

- ・ オープンシステムの構築は、多数の業者と契約を直接結んで行うこととしている。
- ・ 公平、公正な調達を行うため、業者選定に当たって設ける選考委員会のメンバーには、調達に関する有識者等を加える予定。

社会保険オンラインシステムの見直しスケジュール

- ・ 2003年度(平成15年度) レガシーシステム刷新可能性調査(予備調査)の実施
- ・ 2004年度(平成16年度) レガシーシステム刷新可能性調査(本調査)の実施
- ・ 2005年度(平成17年6月) 見直し方針の策定
- ・ 2005年度(平成17年度) 最適化計画の策定
- ・ 2006年度(平成18年度) 最適化の実施(平成18年度～平成22年度)

